

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 19 日

札幌市立 新琴似西小学校

1 新琴似北中学校区における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	挨拶と言葉で未来を拓く新琴似の子	教職員の連携・協同 学びのつながり 指導の連続性 子ども理解の共有	B	挨拶と言葉による表現は、新琴似西小学校においても、改善をするべき大切な重点項目であり、児童会を中心に挨拶運動や定期的な生活目標設定などを行うことで改善を図った。また、7月に行われたさっぽろっ子パートナー校交流では、パートナー校の仲間や先輩からのアドバイスを校内活動の活性化に生かすことができた。	A	A
今年度の重点	・研究会・授業参観での授業共有・児童の 実態共有 ・身に付けておきたい知識や技能・生活習慣の共有		B	札幌市を中心に小中学校の職員で、授業づくりや振り返りを行い、互いの指導方法のよさや課題について共有できた。困り感をもつ児童については、卒業前の小中間での引継ぎを丁寧に行っていくとともに、身に付けておきたい知識や技能、生活習慣については、今後、テーマをしばらくしながら、職員間で共有をはかる手立てを講じる。	B	B
学校関係者評価委員会による意見		○児童会を中心に行う挨拶運動は、素晴らしいことだと思います。 ○これからのコミュニティースクールの中で情報共有を進め、卒業までに必要な事を理解できるように、児童だけではなく、保護者の方々にも知らせていきたい。 ○パートナー校との連携により、児童・生徒、教員間の情報共有を進められたことを高く評価いたします。				

2 新琴似西小学校における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	○あかるく…豊かな情操を育て（豊かな心） ○かしこく…日々の学習を着実に成就し（学習成就） ○たくましく…健康で粘り強く働く心身を育て（健康生活） ○なかよく…学級 学校 家庭 社会の一員としてみんなとともに向上する（社会連帯）		B	今年度は、約2ヶ月ごとの生活目標設定(豊かな心育成部)、全校自学集会(学ば力育成部)、全校大縄跳び集会などの体を動かす活動(健康育成部)、地域や家庭とのつながりを生む活動(信頼創造部)などを行った4部に加え、教育環境部を発足し、子どもたちの教育環境整備(ICT・教材整備)にも力を入れた。来年度も、より重厚な教育を展開できるよう、5つの部のつながりや連携を意識していきたい。	B	B
学校関係者評価委員会による意見		○『なかよく』の部分は、特に保護者の方々の協力が必要なので、PTAの発信を上手に使いながら、こまめに情報共有をしていきたい。 ○日々の学習と合わせて、今後も自身が社会の一員となって世の中で活躍するイメージがもてるよう、地域や家庭など身近な存在からヒントを得られるような取組を進めていただければと思います。 ○教育環境部の今後の活動に期待しています。				

人間尊重の教育	「自分が大切にされている」と実感できる「人間尊重」の教育	自立・平等・信頼	B	札幌市共通指標アンケートで「人の役に立ててうれしいと感じることがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う。」という質問に対し8割～9割の児童が肯定的な回答をしているのに対し、一方で「自分が必要とされていると感じる。」と答えた子が7割弱と低めであった。感謝の気持ちや相手のよさを、言葉や文章で伝える関わり合いを設定し、子ども同士がお互いに認めあう風潮を生み出したい。	A	A
「学ば力」の育成	自分で学びを進め、未来を切り開く子どもを育てる	『委ねる』時間のある授業構築	B	全校研や部内研を全担任が行い、子ども『委ねる』時間のある授業構築を目指した。子どもに『委ねる』という言葉のとらえ方に個人差があったため、来年度はその差を埋めていく必要がある。また、全校的に家庭での『自主学习』を強く呼びかけ、浸透し始めている。来年度もさらなる声掛けを行い、家庭での学習の質向上を狙う。	B	B
「豊かな心」の育成	自他の命を大切にする教育の充実	自己肯定感・仲間意識	B	○学校のルールについて見直し 廊下の歩き方、5分休みの在り方、挨拶などはさらに力を入れていく。 『NEXT新西』で示されている学校の約束を全校でしっかりと守っていく。 また、今後も全職員で共有理解を図り、学年の垣根を越えて指導していく。 ○学習発表会の位置づけの確認 ねらいとして『日常の学習成果を発揮する場として、表現力を育む。』を意識し、普段から少しずつ積み重ね、学習の成果を発揮できるような内容で取り組んでいく。	B	B
「健やかな体」の育成	子どもが体を動かしたくなるような取組の推進	○子どもたちが積極的に運動できるような取組および環境整備 ○子どもたちが、食育や健康、命の大切さに関心をもつような、望ましい生活習慣づくりの推進	A	○鉄棒・マット・跳び箱週間の取組みの継続 重点週間の設置によって児童の運動機会の増加、授業前授業後の準備と片付けの時間の効率化、評価の情報共有を図る。 ○運動機会の充実 運動機会のさらなる増加を狙い、ドッジボールコート常設・ストラックアウトの設置・全校鬼ごっこや全校大縄跳び大会などの企画を行う。	A	A
いじめ対策	いじめが起きない学校づくり	○早期発見 ○いじめに関するアンケート ○個人面談、保護者面談 ○いじめ対策委員会	B	月1回のいじめ対策委員会をスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー一同で行い、各学級でのいじめの実態把握に努め、職員全体で対策を考え、いじめの深刻化を防止した。また、担任だけで抱え込むことを防ぐために、ケース会議を適宜実施し、多くの職員で関わる体制を整えた。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		○『学ば力の育成』では、自主学习が苦手な子にはテーマを与えて、調べて意見を求めるような形もできるとよいと思う。 ○いじめは起こる前提で、対応についてより深く保護者の理解と、お互いの立場ですべきことの認識を深めておく。 ○いじめ対策について、担任だけではなく、組織として取り組む体制を整えられたことを高く評価いたします。 ○子どもたちのSOSを感じ取れるように、教職員の育成にも力を入れてほしいです。				